

TAD

TAD Evolution One

TAD-E1

SPEAKER SYSTEM

OWNER'S MANUAL

安全上のご注意

- 安全にお使いいただくために、必ずお守りください。
- ご使用前にこの「安全上のご注意」をよくお読みのうえ、正しくお使いください。
- 取扱説明書は保証書と一緒に大切に保管してください。

この取扱説明書および製品には、製品を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために、いろいろな絵表示をしています。その表示と意味は次のようになっています。
内容をよく理解してから本文をお読みください。



警告

この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。



注意

この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が軽傷を負う可能性が想定される内容および物的損害の発生が想定される内容を示しています。

絵表示の例



△ 記号は注意（警告を含む）しなければならない内容であることを示しています。



⊘ 記号は禁止（やってはいけないこと）を示しています。



● 記号は行動を強制したり指示したりする内容を示しています。



警告



ぐらついた台の上や傾いたところなど、不安定な場所に置かない
落ちたり、倒れたりしてけがの原因となります。



天井から吊り下げたり、壁に掛けたりしない
落ちてけがの原因となります。



小さな部品をお子様の手の届くところに置かない
万一飲み込んだ場合は、ただちに医師と相談してください。



注意



本機の上に乗ったり、ぶら下がったりしない
倒れたり、壊れたりしてけがの原因になることがあります。



音が歪んだ状態で長時間使用しない
スピーカーが発熱し、故障や火災の原因になることがあります。



本機の上に重いものや、大きなものを置かない
倒れたり、落下したりしてけがの原因になることがあります。



改造したり、分解したりしない
破損や火災の原因になることがあります。

使用上のご注意



このスピーカーシステムのインピーダンスは 4 Ω です。負荷インピーダンスが 4 Ω 対応のアンプ (スピーカー出力端子に 4 Ω 適合表示があるもの) に接続してお使いください。



スピーカーを過大入力による破損から守るため、下記の注意事項をお守りください。

- 許容入力以上を入力しない。
- 本機を含む AV 機器をアンプに接続するときは、アンプの電源を OFF にする。
- グラフィックイコライザーで高音を増強する場合、音量を上げすぎない。
- 小出力アンプで無理に大きな音を出さない。(アンプの高調波歪が増え、スピーカーを破損することがある)



同軸ユニット (トゥイーター、ミッドレンジ) には強力な磁気回路を用いています。鉄などの磁性体を近づけないでください。振動板を破損する恐れがあります。

組み立て、取り付けの不備、取り付け強度不足、誤使用、改造、天災などによる事故損傷については、当社は一切責任を負いません。

もくじ

安全上のご注意.....	2	スピーカーシステムを接続する	11
付属品の確認.....	4	シングルワイヤリング接続	11
TAD について	5	バイワイヤリング接続	12
TAD Evolution One の特長.....	5	バイアンプ接続.....	13
設置・お手入れ.....	6	バーチカルバイアンプ.....	13
設置のしかた.....	6	ホリゾンタルバイアンプ.....	14
スパイクの取り付けかた	7	システムの調整.....	15
スパイクの取り付け手順	7	ウーファースのパフォーマンス向上のために	15
補助脚を調整する	8	臨場感向上のために	15
グリルの取り外し.....	9	最終調整について	15
設置場所を決める	10	保証とアフターサービス	16
スピーカーシステムのお手入れ.....	10	仕様.....	17

付属品の確認

アクセサリキットの箱の中に、以下のものが入っていることを確認してください。

- 短絡コード (短× 1, 長× 1)



- クリーニングクロス × 1



- コーン型スパイク × 3



- スパイク受け × 3



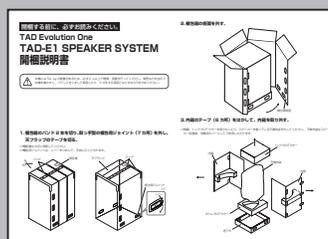
- 補助脚 (長) × 2



- オーナーズマニュアル (本書) × 1



- 保証書 (外装箱に貼付してあります)
- 開梱説明書 × 1 (外装箱に貼付してあります)



所有する喜びと誇り、聴く喜びと感動のために

「TAD」という名称は“Technical Audio Devices”の頭文字から命名されました。

これは、1975年にパイオニア（株）において最高級スピーカー開発プロジェクトの発足時、技術顧問として参画し、当時USAプロオーディオ界の第1人者であった故バート・ロカンシーの「基本に忠実な技術こそ本物の技術であり、技術志向に傾くことなく、常に音質を最重視する技術こそ本物の技術である」という理念に基づく、“綿密な理論検討と正確な実験に裏付けられた工学的アプローチ”の手法を表現したものです。

自らのスピーカー理論を実践するための新境地を見出したバート・ロカンシーと、その思想と哲学を受け継ぐエンジニアたちの、決して妥協を許さぬ技術への探究心が、「TAD」という存在そのものなのです。

この「TAD」の意思を受け継ぎ、TECHNICAL AUDIO DEVICES LABORATORIES, INC. は設立されました。

私達は、当社の持つ最高の技術で皆様へ聴く喜びと感動を提供していきたくと考えています。

TAD Evolution One の特長

TAD-E1 は TAD が長年培ってきた音響技術と最新テクノロジーを駆使し、感動の音を目指し創りあげたスピーカーシステムです。

1. 同軸スピーカーユニット「CST ドライバー」を搭載

本機は、位相の一致したポイントから、広帯域にわたって指向性をコントロールして再生する同軸スピーカーユニット「CST ドライバー」を搭載しており、安定した定位と自然な音場空間を再現します。ミッドレンジのコーン形状は、同軸配置したトゥイーターの指向特性をコントロールするように設計され、トゥイーターとミッドレンジのクロスオーバーにおける位相特性と指向特性とを一致させることで、全帯域で自然な減衰特性と指向放射パターンの両立を実現し、CST ドライバーのみで 250 Hz ~ 100 kHz という超広帯域再生が可能です。

2. トゥイーターにベリリウム、ミッドレンジにはマグネシウム振動板を採用

トゥイーターの振動板に、軽量で剛性に優れたベリリウムを採用しています。独自に開発した蒸着法を用い、内部損失を大きくすることにより、優れた高域共振の減衰特性を実現しています。ミッドレンジには、マグネシウム振動板を採用することで、材料固有の共振音の影響を排除し、歪みの少ない音を再生します。

3. ウーファーに新開発振動板を採用

ウーファーに、軽量で高剛性なアラミド繊維を何層にもラミネートした新開発の振動板を採用し、センターキャップとコーンをシェル状に一体化することで、豊かな低音再生とクリアな中低域再生を実現しています。

4. キャビネットの不要共振を低減する SILENT エンクロージャーを採用

高剛性の樺（バーチ）合板を骨組みに使用し、高内部損失のMDF材と組み合わせることで、高い強度と低い共振を実現する SILENT エンクロージャーを採用しています。後部をティアドロップ形状にすることで、音の回り込みをコントロールして音場の再現性を高めるとともに、キャビネットの不要共振を低減しています。

5. ISO マウントネットワークフィルターをベース部に搭載

剛性の高いアルミベースにネットワークフィルターをマウントしてベース部に格納した ISO (Isolated) マウントネットワークフィルターを採用しています。エンクロージャー内の内部音圧の影響を排除し、クリアな低音を再生します。

設置・お手入れ



設置環境についてのご注意

直射日光のあたる場所や、暖房器具の近くには設置しないでください。木材や塗装の収縮によるエンクロージャーの変形、変色およびスピーカーが故障する原因になります。

人が不快に感じる環境は、スピーカーにとっても同じです。快適な環境でご使用していただくことにより、本来の性能を十分に発揮できます。

ご使用場所の環境は以下を目安に、冷暖房装置および加湿器や除湿機などの使用をお勧めします。

温度：15℃～25℃

湿度：35%～65%（冬期）/ 40%～70%（夏期）

- ・クーラーやストーブなどで、お部屋を急激に冷やしたり暖めたりすると、お部屋が乾燥しすぎる場合がございますのでご注意ください。
- ・外気の影響を受けやすい窓際などでは、結露する恐れがありますのでご注意ください。



設置に際してのご注意

- ・本製品の総質量は54 kgです。設置場所がこの質量に十分耐えられることをご確認ください。
- ・また、スパイクを使用する場合、スパイク1個あたり18 kg以上の荷重がかかりますので、設置場所に跡や凹みができる場合があります。キズつきを避ける場合は、付属のスパイク受けを使用する、または1個あたりの接地の面積が大きく十分強度のあるスパイク受けをご用意ください。
- ・スピーカーシステムにスパイクを使用している場合、移動の際に床にキズがつく原因となりますので、設置場所を移動する前にスパイクおよび補助脚（長）を取り外してください。
- ・本機は54 kgの重量があるため、傾けながらスパイクの取り付け作業を行うときは必ず2人以上で作業してください。取り付ける際には、スピーカーシステムに指を挟まれたり、スピーカーシステムが倒れないようにご注意ください。

設置のしかた

床やラックに設置する

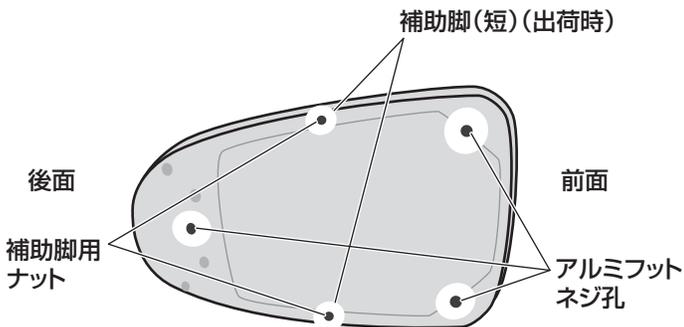
本機のキャビネット底面には、あらかじめコルクシートおよび転倒防止用の補助脚（短）が取り付けられており、設置面が平らである場合はそのまま設置することができます。また、本機にはスパイク、スパイク受け、および転倒防止用の補助脚（長）が付属していますので、設置面の状態に合わせて最適な設置方法を選ぶことができます。以下を参考にして設置方法を決めてください。

	設置場所	スパイク形状	補助脚
スパイクを使用しない	平坦な場所	 コルクシート (本機初期状態)	 補助脚(短) (本機初期状態)
コーン型スパイク	平坦な場所	 設置面のキズつきを防ぐため、付属のスパイク受けを使用してください。	 補助脚(長)
	じゅうたんを敷いた床で傷がつかない、または傷がついても構わない場所	 スパイクを使用してください。	補助脚(短)と取り替える。

スパイクの取り付けかた

スパイクを使用することで、設置面に対してしっかりと設置することができます。スパイクはキャビネット底面の3カ所のアルミフットネジ孔にねじ込みます。(第1図参照) 3カ所で支えることで、スパイクの高さを微調整することなく、設置面に対してガタツキのない設置をすることができます。

10ページの「設置場所を決める」を参考に設置場所が決まったら、以下の手順に従いスパイクおよび補助脚(長)を取り付けてください。

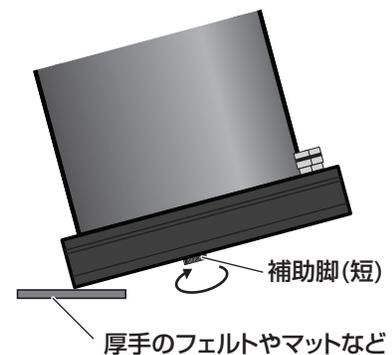


第1図：ベース底面アルミフットのネジ孔位置および補助脚用ナット位置

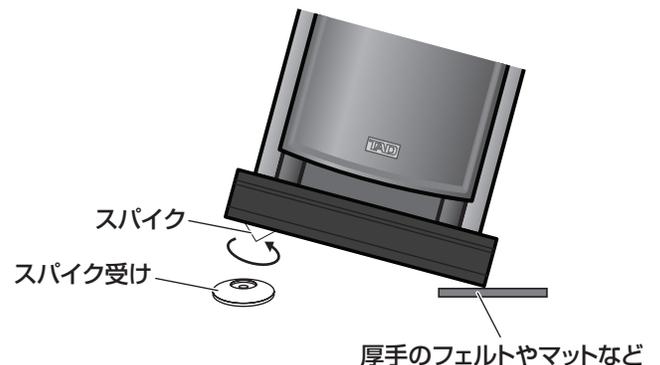
スパイクの取り付け手順

本機は54 kgの重量があるため、傾けながらスパイクの取り付け作業を行うときは必ず2人以上で作業してください。取り付ける際には、スピーカーシステムに指を挟まれたり、スピーカーシステムが倒れないようにご注意ください。また、スピーカーシステムを傾ける際は床面の傷つき防止のため、必ず傾ける側のベースと床面のあいだに厚手のフェルトやマットなどを敷いてください。

1. スピーカーを前方向に傾け、左右の補助脚(短)を取り外します。

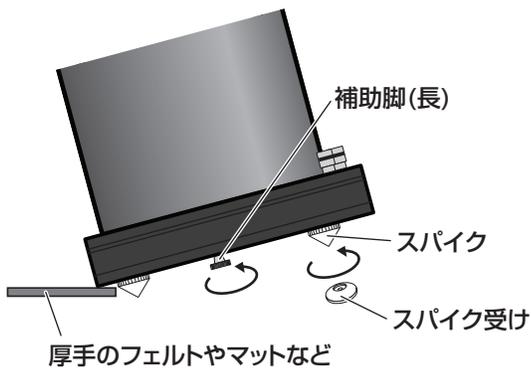


2. スピーカーを右横方向に傾け、左前のアルミフットにスパイクをねじ込みます。スパイク受けを使用する場合は、スパイク受けをスパイクの下に置きます。



3. 手順2と同様にスピーカーを左横方向に傾け、右前のアルミフットにスパイクをねじ込みます。スパイク受けを使用する場合は、スパイク受けをスパイクの下に置きます。

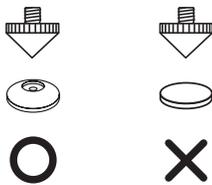
4. スピーカーを前方向に傾け、後ろのアルミフットにスパイクをねじ込みます。次に、補助脚(長)を取り付けます。スパイク受けを使用する場合は、スパイク受けをスパイクの下に置きます。



5. 右記の「補助脚を調整する」を参考に、補助脚を調整してください。

⚠ 警告

- スパイク、補助脚は必ず止まるまでねじ込んでください。
- スパイクを使用する際は、必ず初期状態で付いている補助脚(短)を取り外し、補助脚(長)と交換してください。補助脚(短)では転倒防止機能を果たすことができずに危険です。
- スパイク受けは下図のように、中央にくぼみのある面を上にして置いてください。



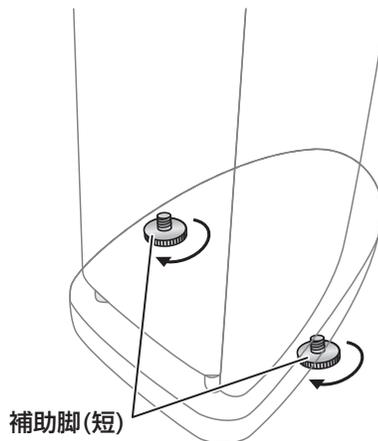
- 転倒防止のため、必ず補助脚を使用してください。
- 補助脚がスパイクより出っ張っている状態で設置しないでください。
- スパイク取り付け後は、右記の「補助脚を調整する」を参考に、必ず補助脚を調整してください。

補助脚を調整する

本機には2種類の転倒防止用の補助脚があります。それぞれの調整方法を参考にして、設置面とのガタツキをなくしてください。

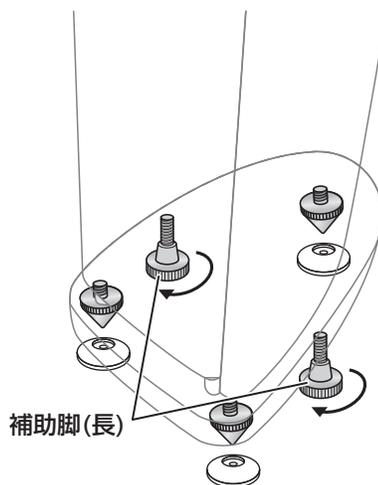
<スパイクを使用しない>

ローレット部分を指で回し、接地面と補助脚底面のガタツキをなくしてください。



<スパイクを使用する>

ローレット部分を指で回し、接地面と補助脚底面のガタツキをなくしてください。



⚠ 警告

- 転倒防止のため、必ず補助脚を調整してください。
- 補助脚調整後にスピーカーを軽くゆすり、スピーカーが安定して設置できたか確認してください。

グリルの取り外し

グリルを取り外すには、グリルの左右の端を持って取り外します。グリルを取り付けるには、グリルの向きを製品前面の形状に合うようにして、次にグリル裏面の穴とウーファー部の突起を合わせて押し込みます。



第2図：TAD Evolution One スピーカーシステムのグリルの取り外し

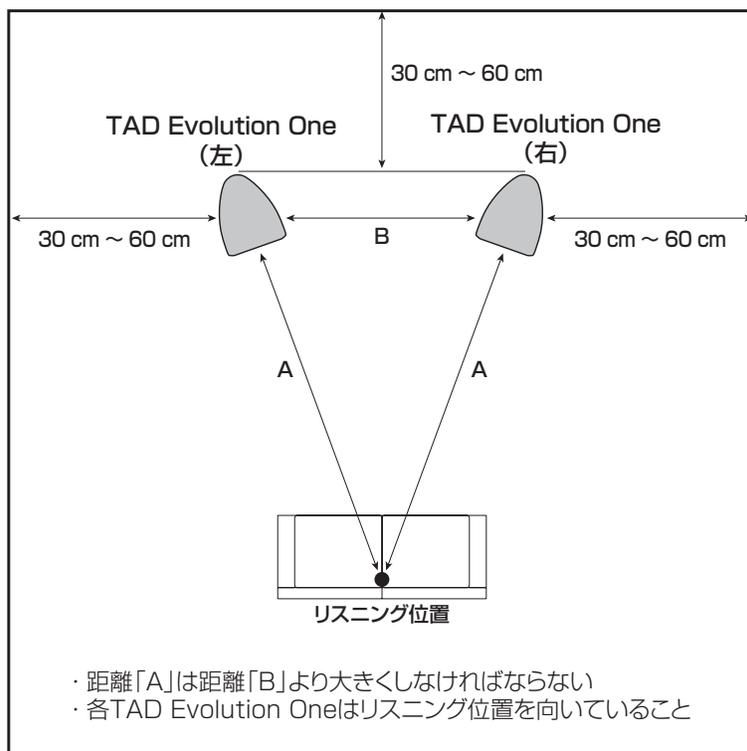
設置場所を決める

リスニングルームでのスピーカーシステムの設置状態は、低音の再生能力、音の正確性、臨場感の面で TAD Evolution One スピーカーシステムの総合パフォーマンスに大きく影響します。部屋の環境によって設置のしかたが異なりますので、このセクションはガイドのみを目的としています。実際に部屋で設置を試してみることで、最適な結果が得られます。

はじめに、第 3 図のように、スピーカーシステムをリスニングルームの壁面から 30 cm ~ 60 cm 程度、両側の壁から 30 cm ~ 60 cm の場所に置きます。リスニング位置は、2 つのスピーカーシステムからほぼ等距離が良いでしょう。また、スピーカーシステムを内側に向けて各軸がリスニング位置を向くようにします。

次に、11 ページの「スピーカーシステムを接続する」で述べるようにオーディオシステムを接続します。

さらに、15 ページの「システムの調整」で述べるようにスピーカーシステムの設置を最適化します。



第 3 図 : TAD Evolution One の 2 チャンネルセッティング例

スピーカーシステムのお手入れ

TAD Evolution One スピーカーシステムは塗装仕上げとなっております。エンクロージャーにほこりや指紋がついたときは、付属のクリーニングクロスで拭き取ってください。

⚠ 注意

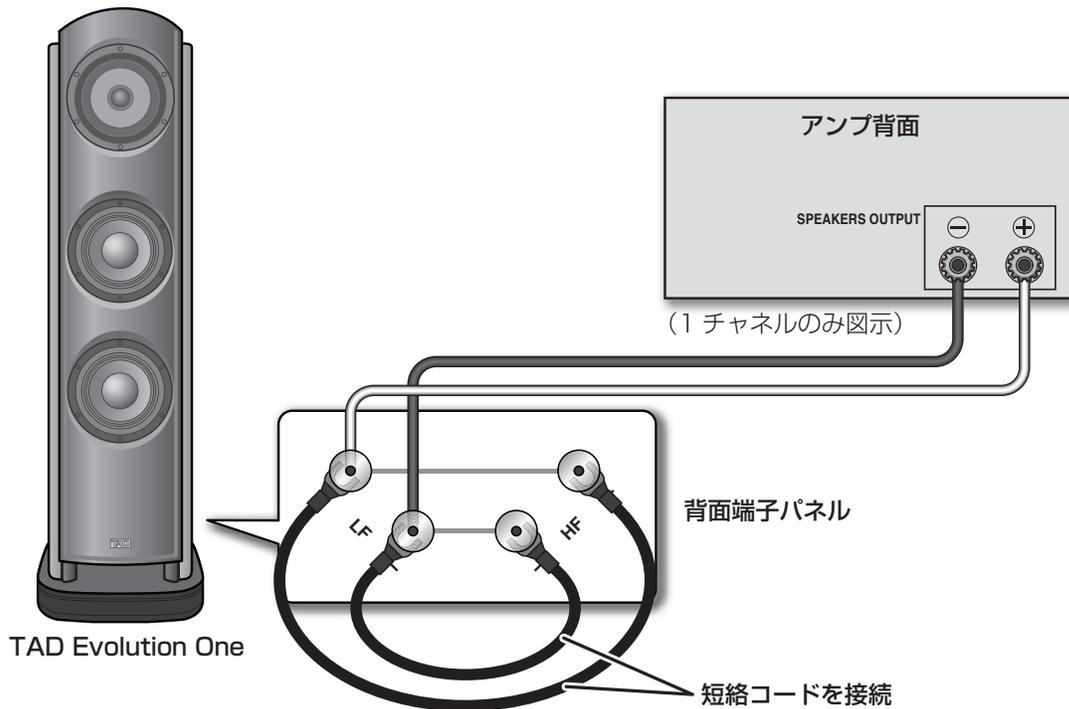
- ・ エンクロージャーやグリルのお手入れには、クリーナーや研磨剤、化学ぞうきんを使用しないでください。
- ・ アルコール、ベンジン、殺虫剤などが付着すると、塗装がはがれる場合があります。

⚠ 注意

- 機器の接続や変更を行う場合は、必ずアンプや他の機器の電源を切り、電源コードをコンセントから抜いてください。
- 接続するにあたって、本機にはスピーカーコードは付属しておりません。スピーカーコードは市販のものをご使用ください。
- 本機の入力端子はバナナプラグでの接続も可能です。
- バナナプラグをご使用の際は、入力端子の先端のキャップを外してください。
- 端子に接続したあとコードを軽く引いて、コードの先端が端子へ確実に接続されていることを確かめてください。不完全な接続は、音とぎれたり、雑音が出たりする原因となります。
- コードの芯線がはみ出して、芯線どうしが触れたりするとアンプに過大な負荷が加わって動作が停止したり、故障することがあります。
- アンプに接続したときに、片方（右または左）のスピーカーシステムの極性（+、-）を間違っていない場合、正常なステレオ効果が得られなくなります。

シングルワイヤリング接続

シングルワイヤリング接続をするには、付属の短絡コードでクロスオーバー・ネットワークの低周波数（ウーファー部）域と高周波数（CST部）域の部分を結合します。第4図のように、短絡コードを使用して上下のHF(High-Frequency)端子とLF(Low-Frequency)端子を短絡させ、アンプからの（+）線をいずれかの赤の接続端子に、アンプからの（-）線をいずれかの黒の接続端子に接続します。



第4図：TAD Evolution Oneの
シングルワイヤリング接続

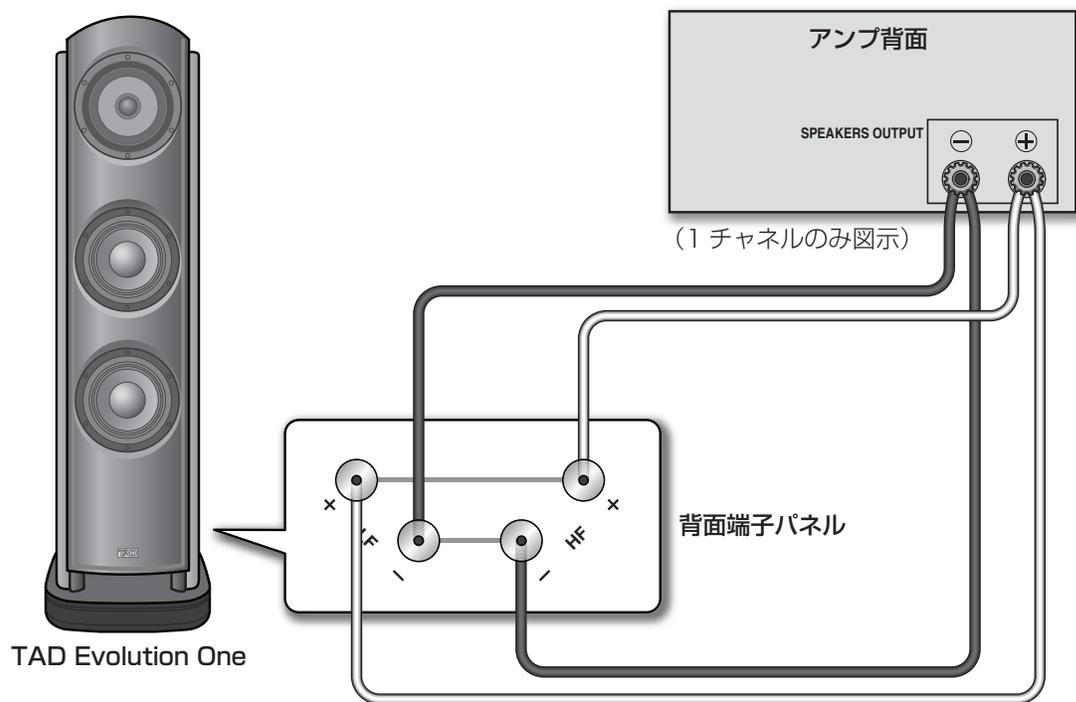
バイワイヤリング接続

バイワイヤリング接続では、アンプからのスピーカーケーブルを個別に低周波数（ウーファー部）域と高周波数（CST部）域に接続します。

1組のスピーカーケーブルを、LF端子（ウーファー用ネットワーク）に接続します。そして、もう1組のスピーカーケーブルを、HF端子（CST用ネットワーク）に接続します。次に、それぞれのスピーカーケーブルをともにアンプのスピーカー端子に接続します。第5図のように、必ずそれぞれのケーブルの（+）側をアンプの（+）端子に、（-）側をアンプの（-）端子に接続してください。

⚠ 注意

バイワイヤリング接続をする場合は、スピーカーケーブルを接続する前に短絡コードを取り外してください。



第5図：TAD Evolution Oneの
バイワイヤリング接続

バイアンプ接続

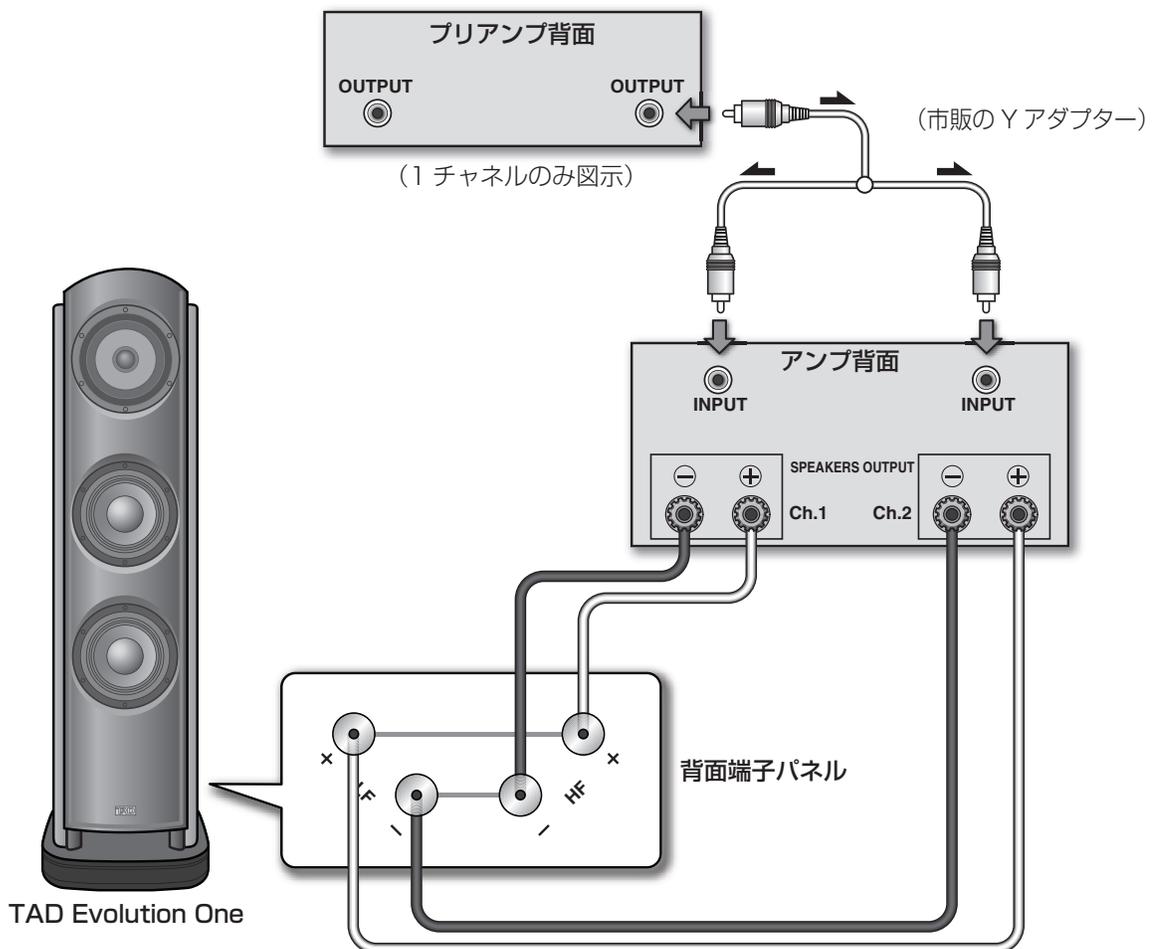
バイアンプは、低周波数（ウーファー部）域と高周波数（CST部）域について専用のアンプを使用します。2つの接続方法があり、バーチカルバイアンプ接続、水平バイアンプ接続といいます。

⚠ 注意

バイアンプ接続をする場合は、スピーカーケーブルを接続する前に短絡コードを取り外してください。アンプを破損する原因となることがあります。

バーチカルバイアンプ

この接続では、同じステレオアンプを各スピーカーシステムに使用します。第6図のように、各アンプの1チャンネルで低周波数域を駆動し、他のチャンネルで高周波数域を駆動します。1組のスピーカーケーブルをアンプのチャンネルとLF端子（ウーファー用ネットワーク）に接続します。それから、もう1組のスピーカーケーブルをアンプの他のチャンネルとHF端子（CST用ネットワーク）に接続します。必ずそれぞれのケーブルの（+）側をアンプの（+）端子に、（-）側をアンプの（-）端子に接続してください。

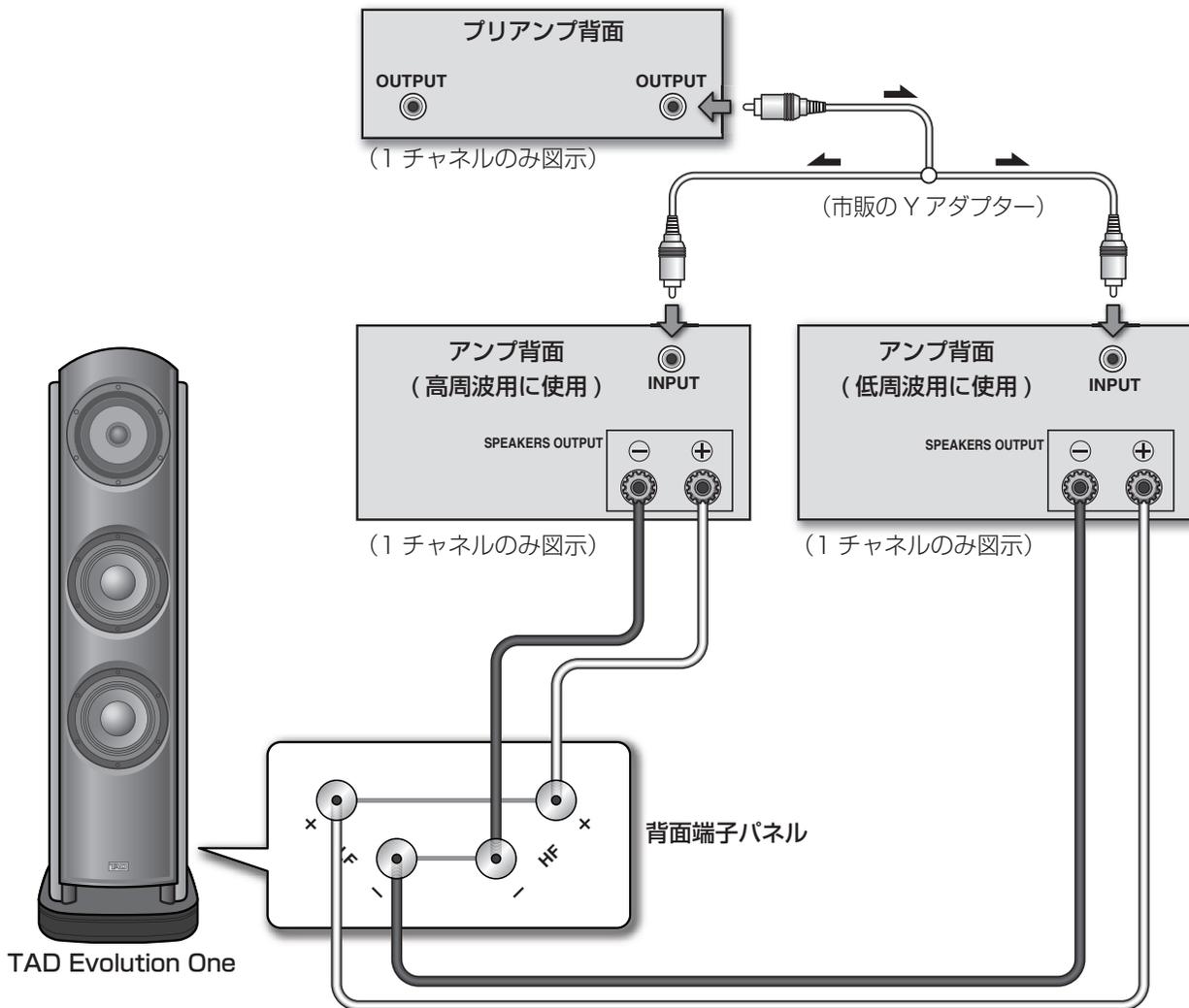


第6図：TAD Evolution Oneの
バーチカルバイアンプシステム接続

水平バイアンプ

この接続では、異なるステレオアンプをスピーカーシステムの低周波数（ウーファー部）域と高周波数（CST部）域に使用します。第7図のように、1つのアンプの各チャンネルで各スピーカーシステムの低周波数域を駆動し、他のアンプの各チャンネルで高周波数域を駆動します。

この方式は、2つのアンプが同じゲインであることが必要です。ゲインが異なる場合、低周波数再生と高周波数再生の間で再生レベルに不均衡が生じます。ご不明な点は販売店にご相談ください。



第7図：TAD Evolution One の
水平バイアンプシステム接続

ウーファースのパフォーマンス向上のために

アコースティック弦楽器のベースのような低音がよく録音されている音楽を選びます。すべてのベースの音階がほぼ同じレベルであるかを聴きます。もし、いずれかの音が他の音より強調されているようなら、音階が最も均質になるまで TAD Evolution One スピーカーシステムを移動させてみます。

通常は壁に近づけると低音のベース出力が増大しますが、音階の高い方で不均質になることがあります。側壁に近づけたときと背面に近づけたときでは同じ効果にはならないので、両方に動かしてみても最も快適な音になるようにします。

ドラムの音も聴きます。キックドラムは低周波数のふくらみがなくタイトで速く聞こえるのが良い状態です。スピーカーシステムの位置が数センチ変化するだけでウーファースのパフォーマンスに大きな影響を生じることがありますので、時間をかけて多くの位置で試してください。

作業を早く済ませるための裏技は、人と話しながら室内を動き回ってもらうことです。声が反響なく最も自然に聞こえる位置を聴き分けて、その場所にスピーカーシステムを設置します。

臨場感向上のために

センターイメージの強い音楽を選び、その音像が正確にスピーカーシステムの中央に定位するように、焦点を合わせます。臨場感が不明確で広がってしまうときは、おそらく側壁が強い反射を起こしています。この効果を下げるためには、スピーカーシステムを中央に寄せます。これで近づきすぎると、リスニング位置の前方で軸が交差するようにスピーカーシステムの間に入ってみます。CST ドライバーの優れた軸外パフォーマンスにより、側壁反射の強さが低減して臨場感が安定し集中します。

また、きれいに録音されたアコースティック音楽を聴いて、臨場感が広く深いかを確認します。深さが不足しているとしたら、スピーカーが壁に近すぎるからです。その場合は、スピーカーシステムを前に移動してみます。

最終調整について

あるパフォーマンスを調整するためにスピーカーシステムを動かすと、他のパフォーマンスが低下することもあります（たとえば、臨場感の精度を上げると低音の応答性が悪化するなど）。このようなときは、リスニング位置を移動してみます。低音の応答性はスピーカーシステムとリスニング位置の双方に強く影響を受けますが、臨場感はほとんどスピーカーシステムの位置だけで決まります。したがって、臨場感の調整で低音域が低下したら、リスニング位置を変更するとパフォーマンスが戻ります。

部屋の特性もサウンドに大きな影響を与えます。家具が少なく床が硬い「ライブ」な部屋は、サウンドに人工的な広がり感覚を与えますが、緻密さや正確さが低下します。家具が多く、じゅうたんやカーテンなどが多い「デッド」な部屋では、乾燥した生気のないサウンドになり、十分なサウンドレベルまでスピーカーシステムを駆動するためにはかなり多くのパワーを必要とします。つまり、その中間に最適な場所があります。硬質で仕切りのない平行な壁、特に側壁は強いフラッター型エコーを生じ、臨場感に悪影響を与えるので避けてください。カーテン、壁掛け、本棚で長い壁に仕切りを作ってみます。また、臨場感を損なわないよう、部屋のレイアウトがあまり非対称にならないようにします。

保証とアフターサービス

保証書（別添）について

保証書は、必ず「お買い上げ店名・お買い上げ日」などの記入を確かめて販売店から受け取り、内容をよく読んで大切に保存してください。

保証期間は購入日から3年間です。

補修用性能部品の最低保有期間

弊社はこの製品の補修用性能部品を製造打ち切り後、8年間保有しています。性能部品とは、その製品の機能を維持するために必要な部品です。

修理に関するご質問、ご相談

お買い求めの販売店へご依頼ください。また、ご転居されたりご贈答品などでお買い求めの販売店に修理のご依頼ができない場合は、修理についてのご相談窓口にご相談ください（18ページ）。

連絡していただきたい内容

- ・ご住所
- ・お名前
- ・お電話番号
- ・製品名：スピーカーシステム
- ・型番：TAD-E1
- ・お買い上げ日
- ・故障のまたは異常の内容（できるだけ具体的に）

■ 保証期間中は：

修理に際しては、保証書をご提示ください。保証書に記載されている当社の保証規定に基づき修理いたします。

■ 保証期間が過ぎているときは：

修理すれば使用できる製品については、ご希望により有料で修理いたします。



ステレオ再生のエチケット：

ステレオの音量はあなたの心掛け次第で大きくも小さくもなります。

特に静かな夜間は小さな音でも隣近所へ通りやすいものです。夜間の音楽鑑賞には特に気を配りましょう。

商品名

TAD Evolution One

型番

TAD-E1

形式

3ウェイ位相反転式フロア型

ドライブユニット

ウーファー：18 cm コーン型× 2

ミッドレンジ/トゥイーター：

同軸 14 cm コーン型/ 3.5 cm ドーム型

パフォーマンスデータ

再生周波数帯域： 28 Hz ~ 100 kHz

クロスオーバー周波数： 250 Hz、2 kHz

最大入力 (JEITA)： 250 W

出力音圧レベル： 88 dB (2.83 V、1 m 自由空間)

インピーダンス： 4 Ω

質量： 54 kg

外形寸法：

334 mm (幅) x 1166 mm (高さ) x 512 mm (奥行)

付属品

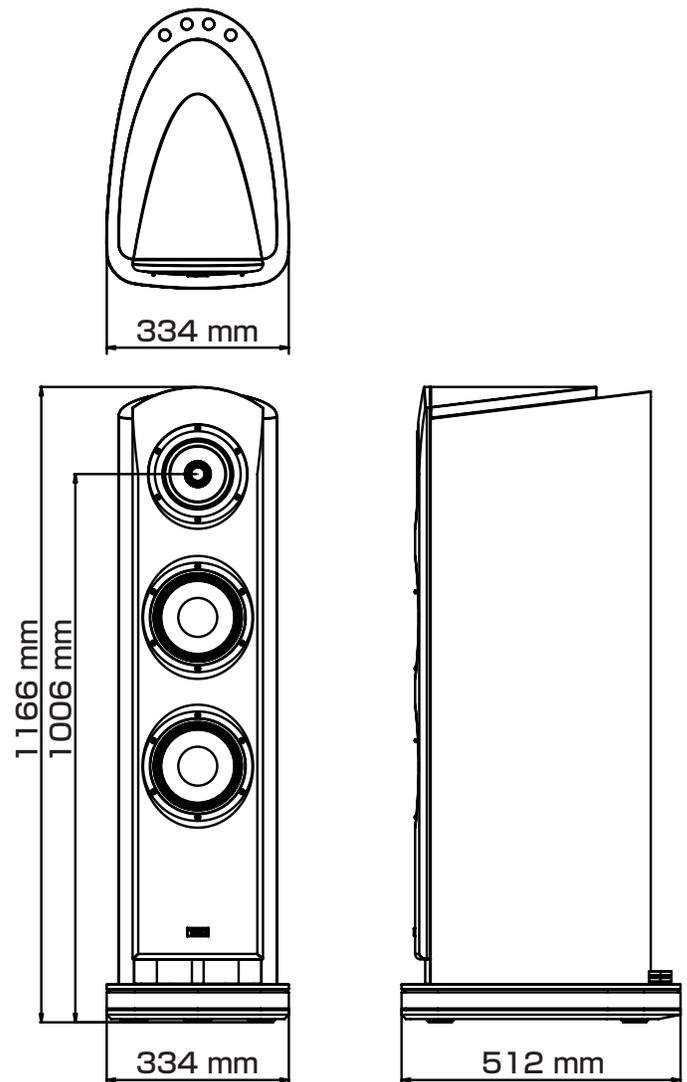
開梱説明書 (外装箱に貼付)

保証書 (外装箱に貼付)

アクセサリキット

- ・ 短絡コード (短× 1, 長× 1)
- ・ コーン型スパイク× 3
- ・ スパイク受け× 3
- ・ 補助脚 (長)× 2
- ・ クリーニングクロス× 1
- ・ オーナーズマニュアル (本書)× 1

本書記載の仕様および構造などの詳細は、改善のため予告なく変更することがあります。



第8図：TAD Evolution One
スピーカーシステムの外形寸法

商品についてのご相談窓口	
● 商品のご購入や取り扱い、故障かどうかのご相談窓口およびカタログのご請求について	
パイオニアカスタマーサポートセンター TAD相談窓口	
受付時間	月曜～金曜 9:30～18:00 (土曜・日曜・祝日・パイオニアカスタマーサポートセンター休業日は除く)
電話	 0120-995-823
ファックス	044-572-8103

※番号をよくお確かめの上でおかけいただきますようお願いいたします

修理についてのご相談窓口	
修理をご依頼される場合は、取扱説明書をご覧になり、故障かどうかご確認ください。 それでも正常に動作しない場合は、①型名②ご購入日③故障症状を具体的に、ご連絡ください。	
● お買い求めの販売店に修理の依頼が出来ない場合	
パイオニア修理受付窓口	
受付時間	月曜～金曜 9:30～18:00、土曜 9:30～12:00、13:00～17:00 (日曜・祝日・パイオニア修理受付窓口休業日は除く)
電話	 0120-5-81028 ※ 携帯電話・PHS一部のIP電話などからは、ご使用になれません。 一般電話 044-572-8100 ※ 携帯電話・PHS・IP電話などからご利用可能ですが、通話料がかかります。
ファックス	 0120-5-81029

※番号をよくお確かめの上でおかけいただきますようお願いいたします

部品のご購入についてのご相談窓口	
● 部品(付属品、取扱説明書など)のご購入について	
パイオニア部品受注センター	
受付時間	月曜～金曜 9:30～18:00、土曜 9:30～12:00、13:00～17:00 (日曜・祝日・パイオニア部品受注センター休業日は除く)
電話	 0120-5-81095 ※ 携帯電話・PHS一部のIP電話などからは、ご使用になれません。 一般電話 044-572-8107 ※ 携帯電話・PHS・IP電話などからご利用可能ですが、通話料がかかります。
ファックス	 0120-5-81096

※番号をよくお確かめの上でおかけいただきますようお願いいたします

インターネットホームページ
本書以外に下記ホームページもご覧ください。 http://tad-labs.com/support/

平成23年10月現在 記載内容は、予告なく変更させていただくことがありますので予めご了承ください。

VOL.046

TAD

TECHNICAL AUDIO DEVICES LABORATORIES, INC.

© 2011 株式会社 テクニカル オーディオ デバイセズ ラボラトリーズ
禁無断転載

株式会社 テクニカル オーディオ デバイセズ ラボラトリーズ
〒160-0023 東京都新宿区西新宿4-15-3
<http://tad-labs.com>